慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	増井幸雄教授追悼
Sub Title	
Author	永田, 清
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1944
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.38, No.2 (1944. 2) ,p.161(97)- 164(100)
JaLC DOI	10.14991/001.19440200-0097
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19440200-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

殆んど觸れてをられぬ點を、他日改訂される機會あらば增補していたゞきたいことである。例へばその一端を示すものとして旣揭の「大日本蠶史」三二一―三二三頁には「工女寄宿所揭示」が收められてゐる。これは當時他の製絲所の工女取締に關する規則の原型をなしたものとして評價さるべきものであるが、この問題を中心とする勞働諸事情を博士は如何樣に解釋を下されるかを伺ひたいと思ふ。その生産工程において工女の纖細な指端を必須とする製絲業は、彼女達に對する勞働事情の解明なくしては十分な吟味を下したものと做すことが出來ないであらう。若し何等かの形でこの希望が容れられるところなるならば、それは獨り評者のみならず我が學界にとつて最も幸ひとするところであること言を俟たない。

增井幸雄教授追悼

永田清

增井幸雄先生は昭和十九年三月十八日慶應病院に於て手厚い看護のうちに長逝せられた。先生の逝去はひとりわが慶應義塾の損失のみならず、日本經濟學會の擧げて惜むところである。ここに先生の人格、略歷、業績を記し、更めて追悼の念を深くするものである。

先生は最も忠實な學者であつた。その忠實は單に學問に對して生涯渝らなかつたばかりではなく、先生の全人格を貫く生活指針であつた。學問に對して忠實であるといふことは學者の當然に擔ふべき義務であり、かかる義務を果す學者は世に多い。しかし先生の如く、全人格を貫く忠實のうちに、着々と學問の途にいそしむものはさほど多くない。先生が公事は言ふに及ばず、身邊の小雜事に至るまで、細大もらさず常に忠實を以て貫かれたことは、先生の貴重なる生活記錄として殘されることになつた。ある詩人は「學者の死は淋しくていゝ」と歌つてゐるが、以上のやうな先生の生活記錄が最後の頁を閉ぢたときに、私はつくづくとさう思つたのである。殊にこの言葉は先生の如き忠實な學者の長逝を悼むに相應しい文字である。

私が最も深く先生の敎へをうけたのは大正十五年四月からのフランス經濟學說研究の講義を聽くときにはじま

る。フランス經濟學說研究といへば、經濟學史のうちでも特殊の講義であつたため、聽講者も甚だ少かつた。はじめは數名の聽講者はあつたが、それも次第に減じて、先生と私と二人きりの場合が屢々であつた。冬の日など朝八時十分からの始業に少しくおくれて教室にかけつけると、先生はよくストーヴの側で待つてゐて下さつた。そして今日の講義のために、朝方までフランスの古典書を讀んできたと語られた。私は先生の誠實そのものの學者的態度に感動した。かくしてわれわれの教室は生氣に溢れた。それも今では、先生の永眠と共に懷しい追想となつてしまつたのである。

先生の忠實な人格を證すべき事柄は數多い。しかしここには、私事に亙つてまでそれを記す必要はあるまい。この點は先生を識るもののひとしく語るところだからである。三月二十日告別式場に於ける小泉塾長はその弔辭において、「忠實君の如き人を喪ふ誠に忍び難きものあり」と嘆ぜられた。先生五十七年の生涯は文字通り忠實の二字を以て貫徹されたのである。

次に先生の略歴を記せば左の如くである。

明治二十一年六月十八日、靜岡縣濱名郡市野村市野一一六番地に生れ、明治四十年三月、濱松中學卒業、同年九月、慶應義塾大學豫科に入學、明治四十五年三月、同大學理財科卒業、同四月、同大學助手となり、更に大正二年四月、同大學部教員として經濟原論、經濟通論を擔當、大正六年三月、第一次歐洲戰亂下に、義塾留學生として歐米に留學、主として英・米・佛に學んで同九年歸朝、大學經濟學部教授となり生前に及んでゐる。乃ち先生塾に職を奉じて既に三十三年、その間、義塾商業學校主任、高等部主任、經濟學部長を歴任、また近くは學事振興委員長として學問奬勵に盡された。かくの如く義塾の學問興隆、學事行政上に多大の貢献を殘されたが、出ては更に、九州帝國大學、東北帝國大學に出講して學生を教導し、文部省學術振興委員、交通協會理事長その他ひろく學術諸團體に關與して、その力を國家のためにつくされた。

先生はかくの如く多忙であつたにも拘らず、甚だ貴重なる學問的業績を遺された。先生の專攻は交通學及びフランス經濟學說研究であつたため、その業績も自ら限定せられてゐるが、何れもわが學界の大なる收穫たらざるはない。左に著作（イ、單行本、ロ、講義錄又は講座）、飜譯、論文に分けて表示する。

一、著作

（イ）

（1）交通總論（昭和九年二月改版に際し「交通經濟總論と改題」）昭和三年四月、丸善
（2）交通政策（「現代經濟學全集」中の一册）昭和四年四月　日本評論社
（3）陸運（「商業全集」中の一册）昭和五年九月　千倉書房
（4）佛蘭西經濟學說研究（「經濟學全集」第四十九卷中に含まる）昭和九年二月　改造社
（5）ゲネー（社會科學の建設者、「人と學說」叢書）昭年九年十一月　三省堂
（6）鐵道運賃論（「鐵道交通全書」中の一册）昭和十二年八月　春秋社

（ロ）

（1）交通政策　總論篇（經濟學講義錄）大正十一年　時事新報社出版部（後にフィニックス出版社）鐵道及海運篇（同講義錄）大正十三年　同社
（2）佛蘭西經濟學說研究（同講義錄）大正十三年　同社
（3）運輸交通（「通信經濟講座」四輯―五輯）大正十四年　日本評論社

増井幸雄教授追悼

（4）陸運政策（社會經濟體系）昭和二年九月　日本評論社

（5）世界の交通業（世界經濟問題講座）昭和八年一月　春秋社

（6）交通政策（講座「經濟學」）昭和十二年慶應出版社

（7）佛蘭西經濟學說（同）昭和十四年　同社

二、飜譯

（1）レートン氏「物價騰貴論」（Introduction to the study of prices, I. ed.）大正二年　北文館

（2）ジャン・バプチスト・セイ「經濟學」（Traité d'Ecomie politique. 6.me éd）上卷、大正十五年十月、下卷、昭和四年九月、岩波書店

（3）クネー「經濟表」（Tableau Economique）戸田正雄氏と共譯、昭和八年十一月、岩波文庫版　岩波書店

三、論文

（イ）論文集に輯錄されたるもの、

（1）一九三〇年の交通問題、（2）經濟學說研究、（3）物價問題の應急策、（4）物價問題の再檢討

（ロ）雜誌

三田學會雜誌、三田評論、産業研究、道路の改良、鐵道研究、道路、海運、社會政策時報、中央公論、我觀、外交時報、交通文化等

（ハ）辭書

（1）經濟大辭書（同文館）、（2）經濟學辭典（岩波書店）、（3）國民百科大辭典（三省堂）、（4）商業經濟辭典（日本評論社）

（昭和十九年六月二日稿）

三田學會雜誌

慶應義塾大學經濟學部機關誌

第三十八卷　三・四月合併號　第三・四號

慶應義塾圖書館 SHIBA TOKYO

人種問題の本質……加田哲二…（一）

統制經濟における價格政策の課題……氣賀健三…（三六）

農業經營適正規模論についての若干の考察…小池基之…（六二）

經濟表解註……渡邊建…（八七）